

第6回プラットフォームエコノミクス研究会（発表資料）

プラットフォーム事業者の決算情報に関する分析

2022年11月29日

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-2

大手町フィナンシャルシティ グランキューブ

株式会社野村総合研究所

ICTメディアコンサルティング部



本資料の位置づけ

概要

- 本資料は、海外および国内プラットフォーム事業者の2022年第2,3四半期の決算情報に関する内容をまとめている。
- 本資料の調査対象は、以下の通り。
 - 海外プラットフォーム事業者：Amazon.com、Alphabet、Apple、Meta、Twitter
 - 国内プラットフォーム事業者：楽天グループ、Zホールディングス

構成 ※アルファベット順で整理

海外プラットフォーム事業者

1

Amazon.com

2

Alphabet

3

Apple

4

Meta

5

Twitter

国内プラットフォーム事業者

1

楽天グループ

2

Zホールディングス

対応頁

■ P 3 - 4

■ P 5 - 6

■ P 7 - 8

■ P 9 - 10

■ P11-12

■ P14-15

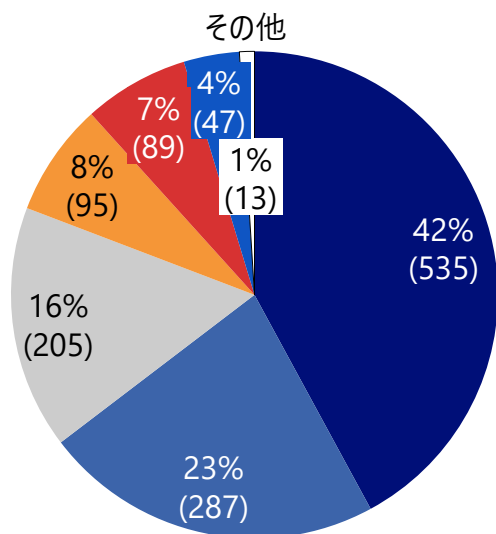
■ P16-17

海外プラットフォーム事業者

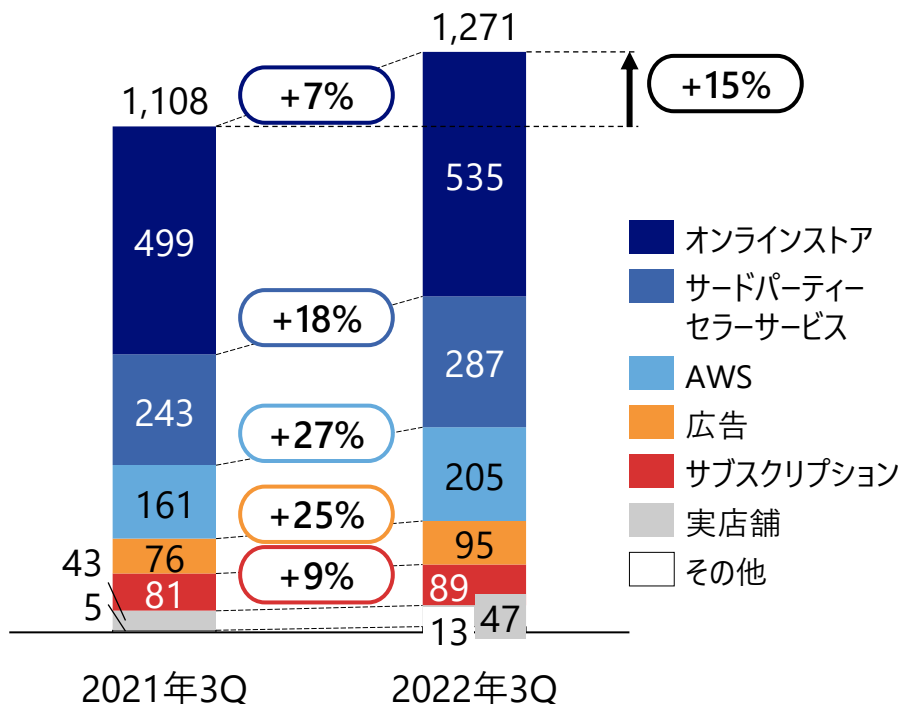
売上高・純利益が前年同期比増。全事業において、売上高の成長が見られる。 新CEOのAndy氏が、多数の部門にて、コスト削減を推進しているとの報道も存在。

- 売上高は1,271億ドル（前年同期比15%増）、純利益は29億ドル（前年同期比9%減）を記録
- マクロ経済環境の変化を懸念しつつも、長期的かつ戦略的な取組に妥協をすることなく、より合理的な投資バランスを目指すと発表
- Andy Jassy CEOの下、Amazonは、倉庫のスペースを縮小、遠隔医療サービスの停止、小売事業における企業職の採用など多数の部門で積極的なコスト削減を行っている

2022年3Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）



2022年3Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）

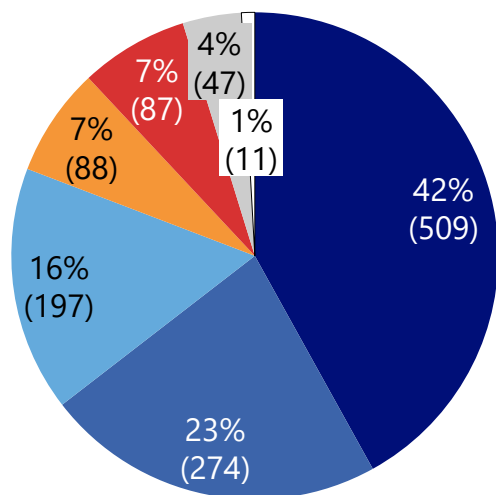
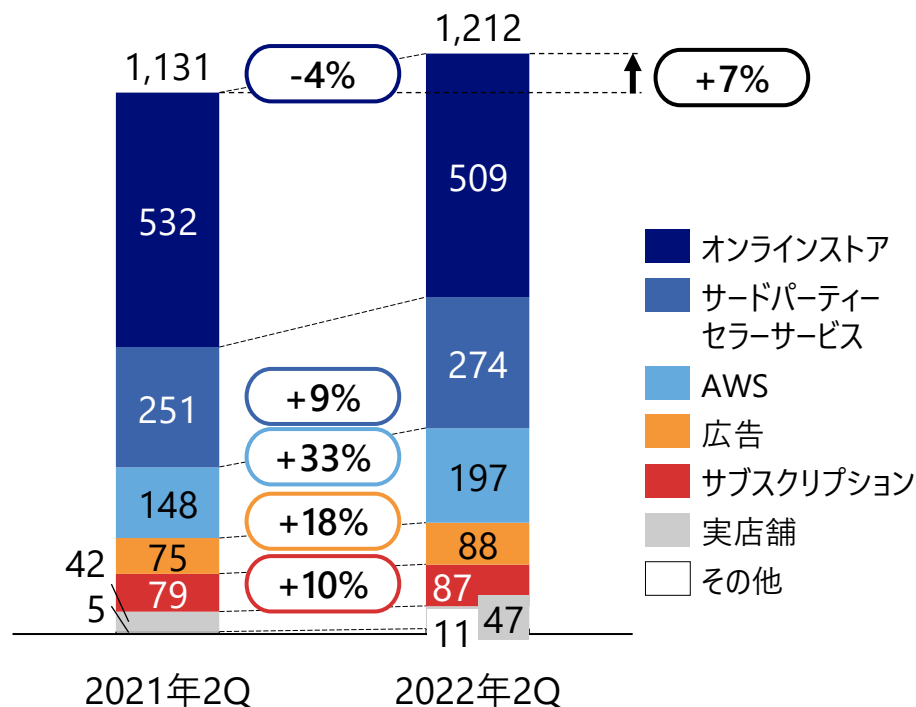


Amazonの2022年第2四半期の決算レポート

売上高は前年同期比増、赤字額は減少。AWSや北米のオンライン小売事業が、業績を牽引しているものの、投資先の評価額の急落を充足できず。

- 売上高は1,212億ドル（前年同期比7%増）、純損失は20億ドル（前年同期比約58億ドル減）を記録
- 出資先電気自動車メーカーRivian Automotive社の評価額が急落し、Amazonは、第2四半期に39億ドルの税引き前損失を計上
- 他方、クラウドコンピューティングAWSは、好調が続いている

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）

2022年2Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）

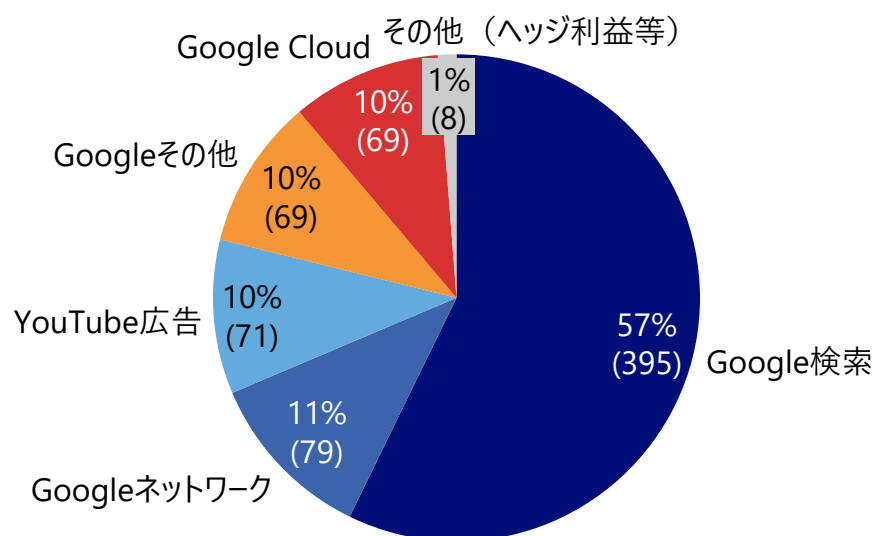
Alphabetの2022年第3四半期の決算レポート

売上高は前年同期比増だが、純利益は27%減少。

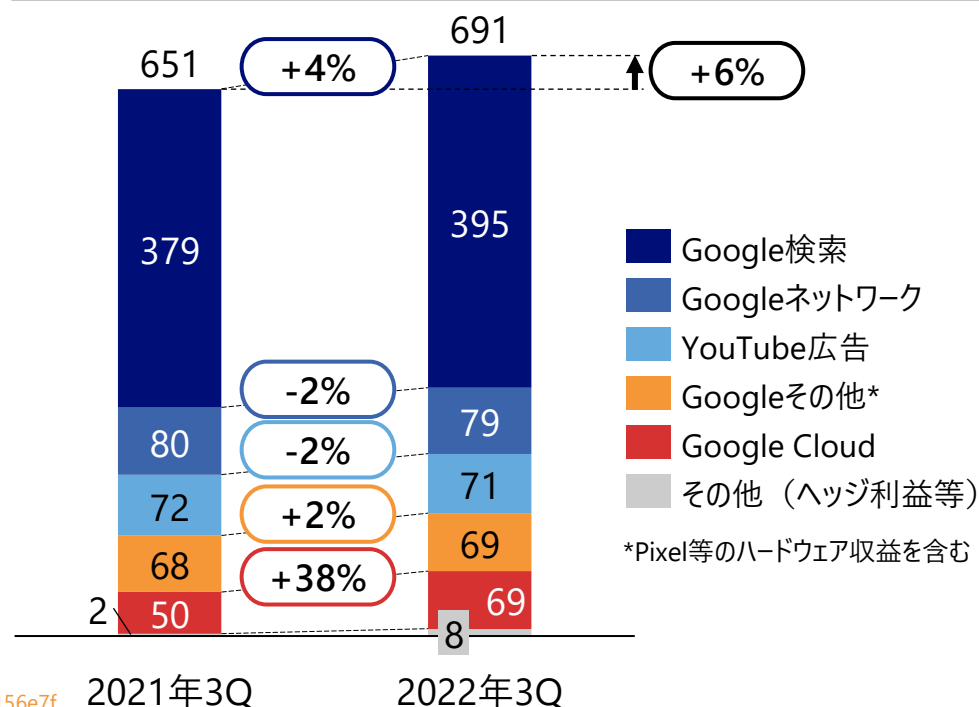
クラウドやハードウェア販売は好調の一方、マクロ環境の影響を受け広告収入が減少。

- 売上高は691億ドル（前年同期比6%増、為替の影響を除き11%増）、純利益は139億ドル（前年同期比27%減）を記録
- CEOのPichai氏は、検索及びクラウド分野での成長やPixel販売台数が過去最高を記録する一方、YouTube広告における広告収入では厳しいマクロ環境を受け、金融分野等で広告費が減少したとコメントしている*1
- 第4四半期に向けて、AIを活用した検索機能の強化、YouTubeの収益性の向上、クラウドの販路拡大を図る

2022年3Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）



2022年3Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）



出所) Alphabet https://abc.xyz/investor/static/pdf/2022Q3_alphabet_earnings_release.pdf?cache=4156e7f

Alphabet https://abc.xyz/investor/static/pdf/2022_Q3_Earnings_Transcript.pdf?cache=a250e61

*1：Google広告の売上は、Google検索、Googleネットワーク、YouTube広告を含む合算値

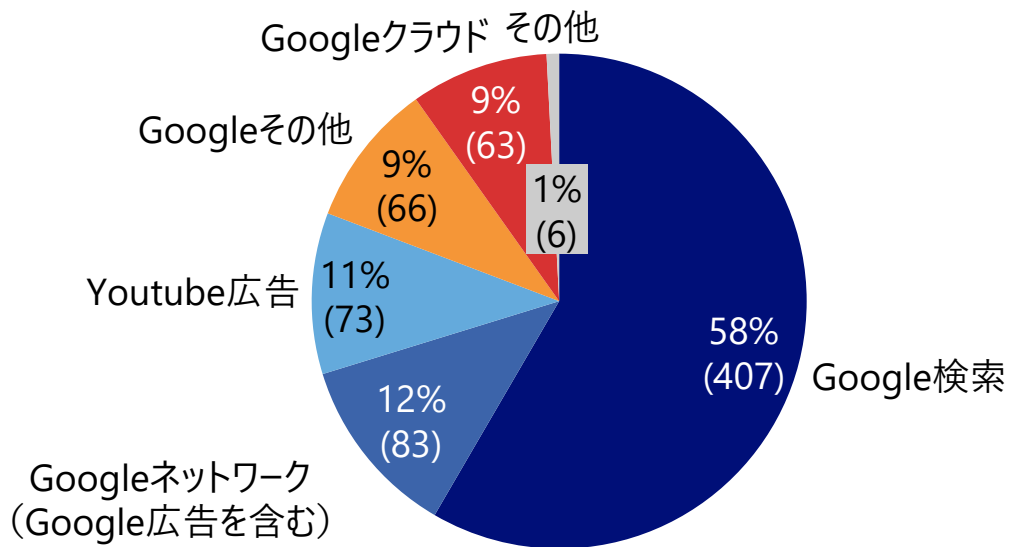
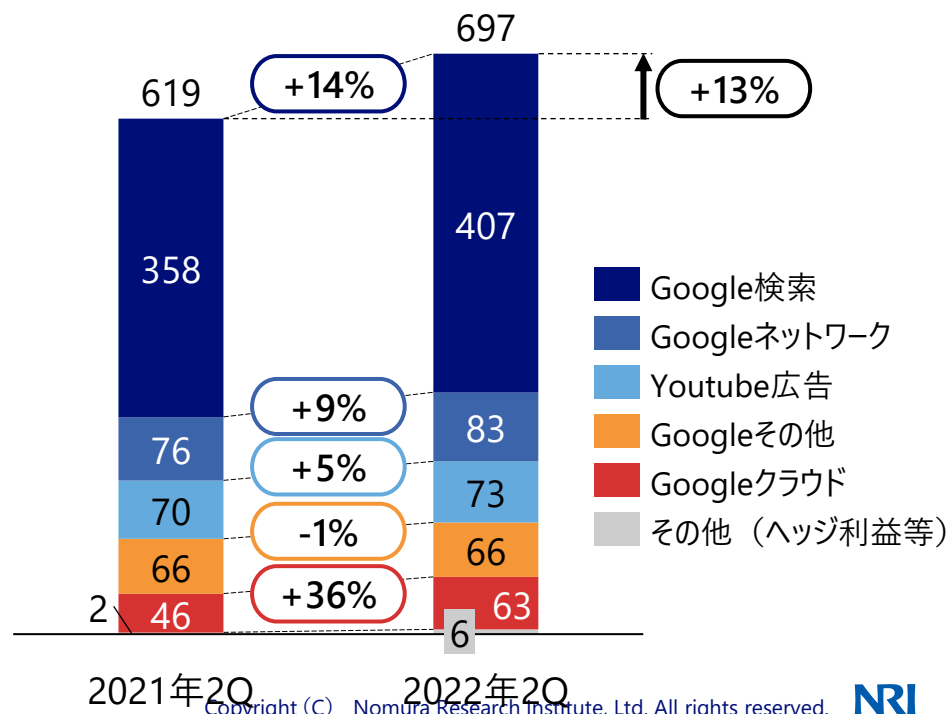
Alphabetの2022年第2四半期の決算レポート

売上高は増加したが、純利益は減少。

前期急成長した広告事業の鈍化に伴い、検索とクラウドの両事業が貢献。

- 売上高は697億ドル（前年同期比13%増）、純利益は160億ドル（同13%減）を記録
- 広告事業は560億ドル（前年同期比12%増）であったが、前期の約69%の伸びに比べ成長が大幅に鈍化
- CEOのPichai氏は、今期は検索とクラウドの両事業が業績を牽引したと指摘し、AIやコンピューティングへの投資継続に意欲を示した

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）

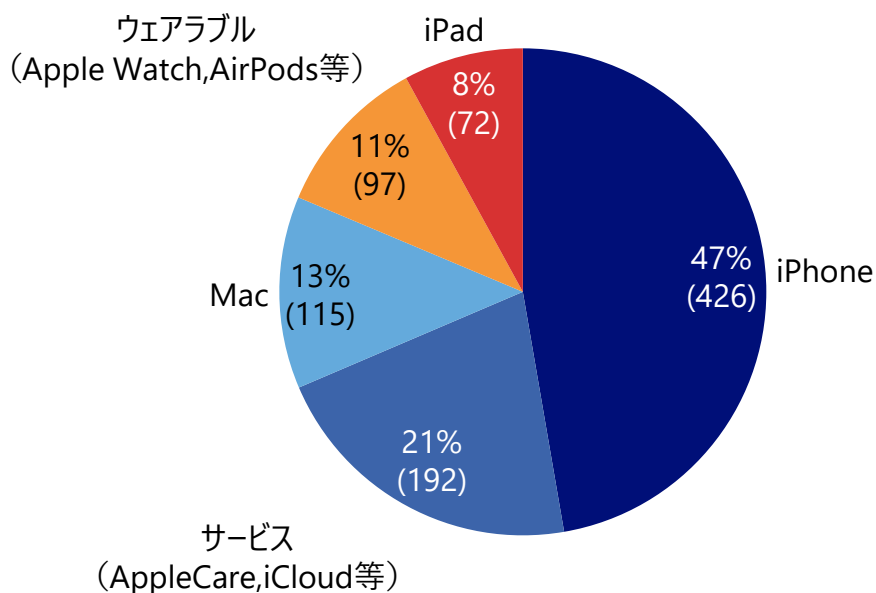
2022年2Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）

Appleの2022年第4四半期の決算レポート

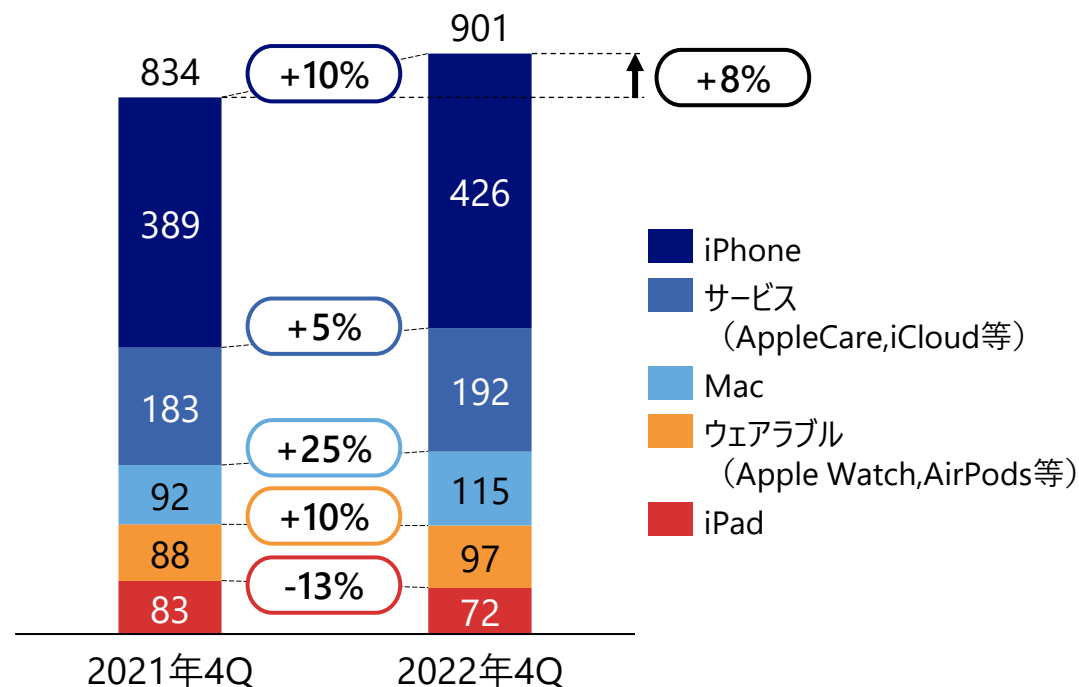
売上高・純利益およびアクティブデバイス数が四半期ベースの過去最高を記録し、株主へ、普通株式1株あたり0.23ドルの現金配当を発表。

- 売上高は901億ドル（前年同期比 8 %増）、純利益は207億ドル（前年同期比 1 %増）を記録。この値は、四半期ベースの売上高と純利益の過去最高記録となった
- CFOのMaestri氏は、コロナ禍の影響が続く不安定な経済状況の中、長期的な目線での投資を続け、当四半期で290億ドル以上（1株当たりの四半期利益は前年同期比4%増の1.29ドル）を株主に還元することができたとコメントしている
- 同社のアクティブデバイス数も、当四半期で過去最高を記録

2022年4Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）



2022年4Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）

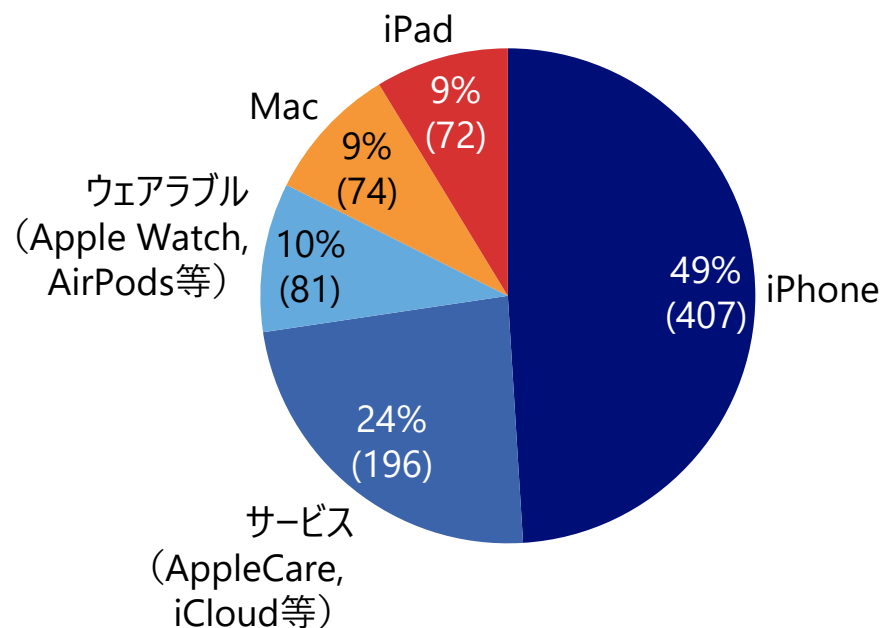
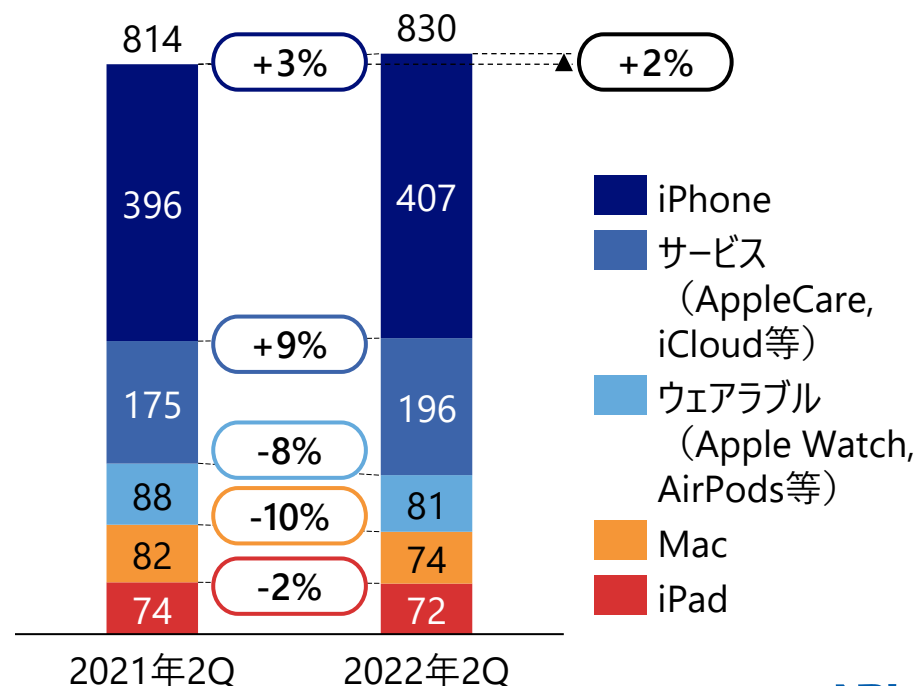


Appleの2022年第2四半期の決算レポート

売上高は第2四半期として過去最高を記録。アクティブデバイスのインストールベースは、全ての地域と製品カテゴリーで過去最高を記録。

- 売上高は830億ドル（前年同期比2%増）、純利益は194億ドル（同11%減）となり、売上高は第2四半期としては過去最高額を記録
- CFOのMaestri氏は、コロナ禍による半導体等の部品不足、消費者の購買制限によるスマートフォン市場の縮小にも関わらず、最大の収入源であるiPhoneの需要に原則は見られないと述べている

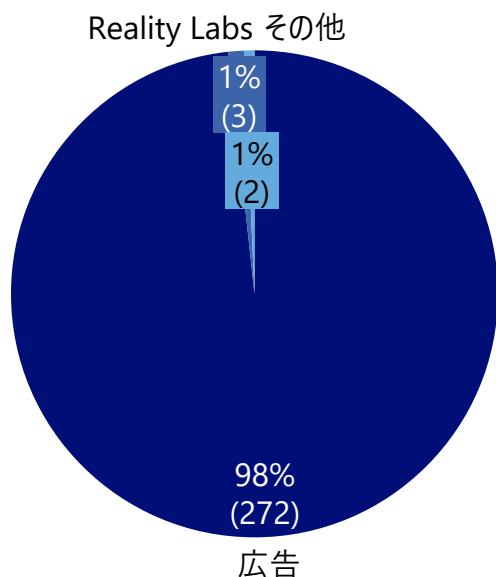
2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）

2022年2Q製品・サービス別売上高
(対前年同期比、単位：億ドル)

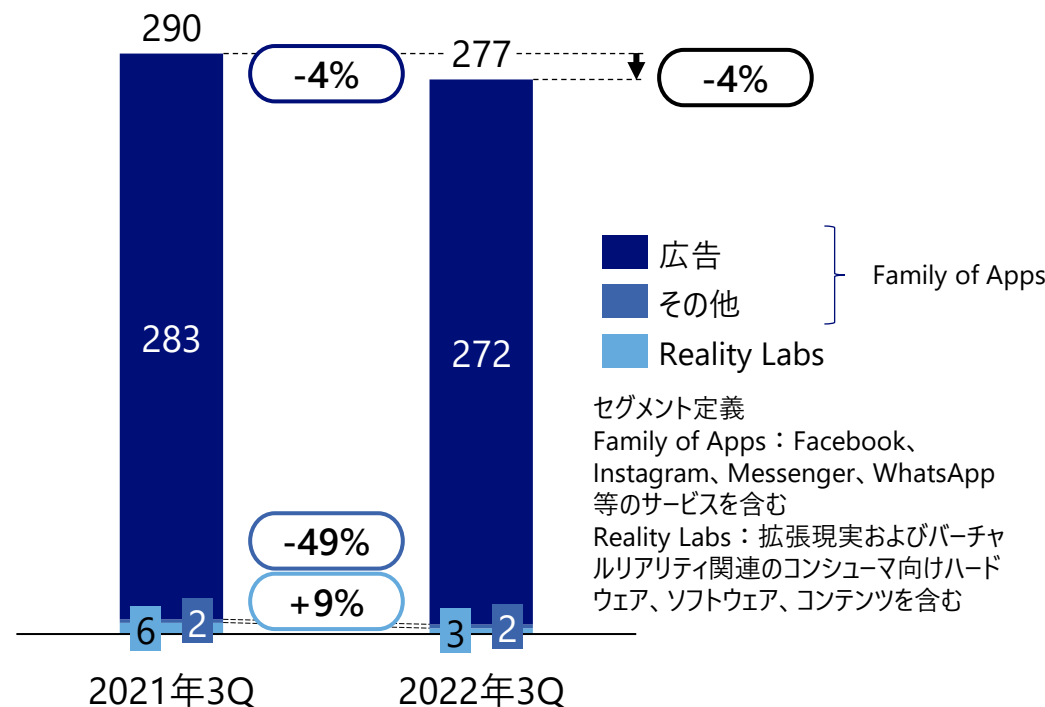
Meta、広告需要の低迷で4%減収。2023年の後半にVRデバイスの後継機を投入する計画。

- 売上高は277億1,400万ドル（前年同期比4.5%減）、純利益は43億9,500万ドル（前年同期比52.2%減）を記録
- Family of Apps部門（広告、その他の合計）の売上高は272億ドルの前年比3.6%減となった
- メタバース部門Reality Labsの売上は、2億8,500万ドル（前年同期比49%減）。バーチャル・リアリティヘッドセット「Meta Quest 2」（2020年10月発売）の売上が落ち着きを見せたことが要因と考えられる。2023年の後半にMeta Quest 2の後継機を市場に投入する計画を明かすとともに、同部門の2023年度の損失は前年度比で「大幅に増加」と説明し、投資を続ける方針を示した

2022年3Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）



2022年3Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）

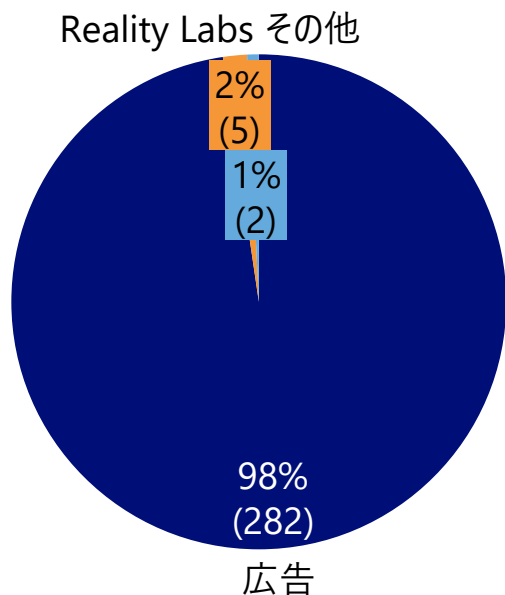
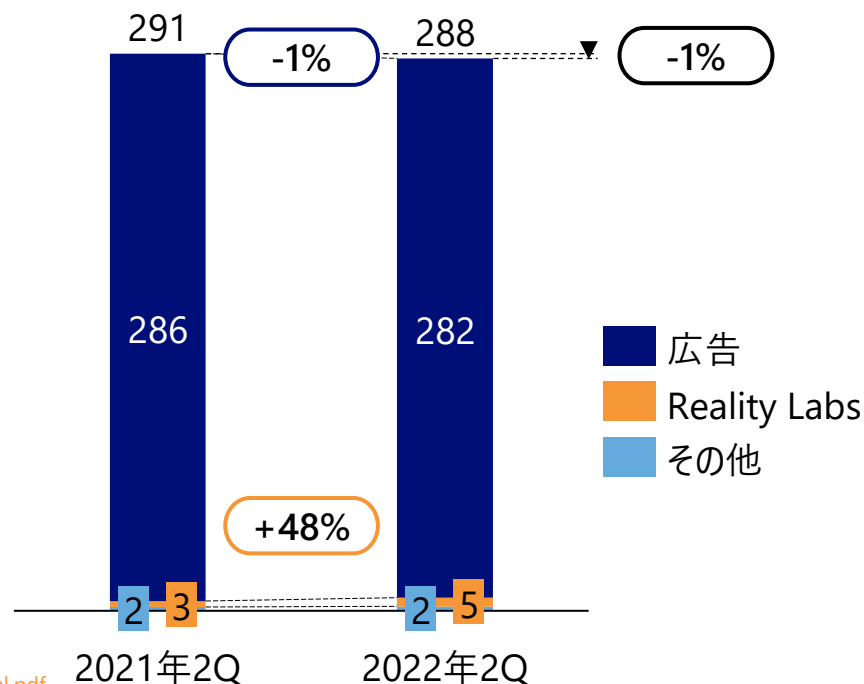


Metaの2022年第2四半期の決算レポート

広告事業の低迷により、上場以来初めて売上高が減少。 メタバース事業（Reality Labs事業）への積極投資を進める。

- 売上高は288億ドル（前年同期比1%減）、純利益は67億ドル（同36%減）を記録
- 売上高の減少は上場以来初めて、広告事業の売上高が減少
- 広告事業が低迷する中で、Metaは、メタバースへの積極投資を進めており、VRヘッドセットやビデオチャットデバイス等の製品投資のため、メタバース事業（Reality Labs事業）において29億ドルの損失を計上

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）

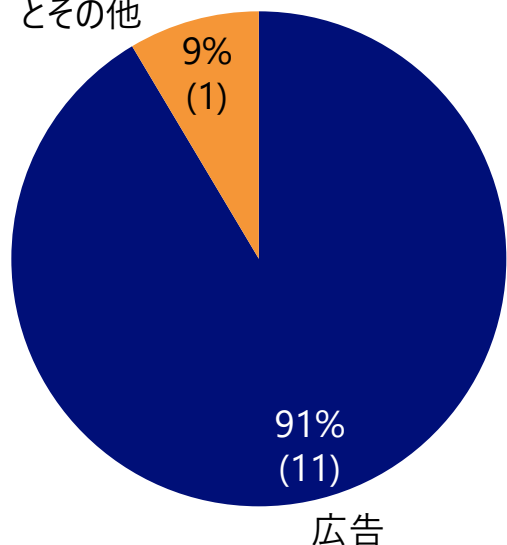
2022年2Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）

売上高は微減のうえ、損失を計上。サブスクリプション売上の大幅減やElon Musk氏による買収の撤回、従業員退職に関連する費用等が、損失計上に影響。

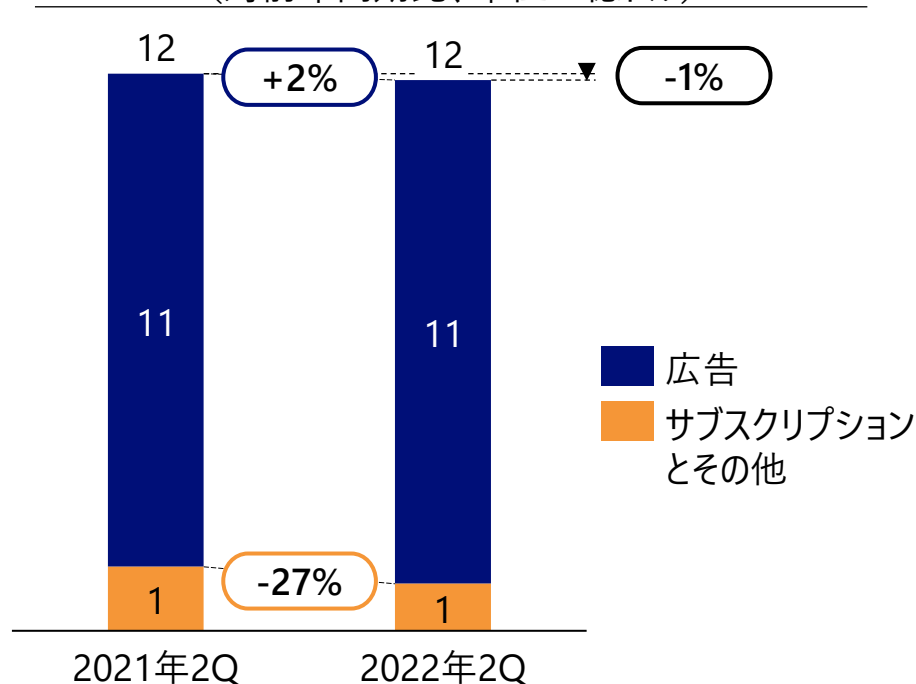
- 売上高は12億ドル（前年同期比1%減）、純損失は2.7億ドル（前年同期比約3.4億ドル減）を記録
- サブスクリプション売上の大幅減（前年同期比27%減）が売上高減少に影響
- Elon Musk氏による買収計画撤回や従業員退職に関連する費用等のコスト急増（前年同期比31%増）が損失計上に影響

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億ドル）

サブスクリプション
とその他



2022年2Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億ドル）



Twitter、11月8日に上場廃止済み

- 米国証券取引委員会の文書によると、Elon Mask氏によるTwitterの買収は現地時間10月27日に発効しており、11月8日にTwitterの株式は上場廃止となった

米国証券取引委員会の文書

UNITED STATES SECURITIES AND EXCHANGE COMMISSION Washington, D.C. 20549 FORM 25 NOTIFICATION OF REMOVAL FROM LISTING AND/OR REGISTRATION UNDER SECTION 12(b) OF THE SECURITIES EXCHANGE ACT OF 1934. Commission File Number 001-36164 Issuer: TWITTER, INC. Exchange: NEW YORK STOCK EXCHANGE LLC	<table><tr><th colspan="2">OMB APPROVAL</th></tr><tr><td>OMB Number:</td><td>3235-0080</td></tr><tr><td>Expires:</td><td>March 31, 2018</td></tr><tr><td>Estimated average burden hours per response:</td><td>1.7</td></tr></table>	OMB APPROVAL		OMB Number:	3235-0080	Expires:	March 31, 2018	Estimated average burden hours per response:	1.7
OMB APPROVAL									
OMB Number:	3235-0080								
Expires:	March 31, 2018								
Estimated average burden hours per response:	1.7								
(Exact name of Issuer as specified in its charter, and name of Exchange where security is listed and/or registered)									
Address: 1355 Market Street, Suite 900 San Francisco CALIFORNIA 94103									
Telephone number: (415) 222-9670									
(Address, including zip code, and telephone number, including area code, of Issuer's principal executive offices)									
Common Stock									

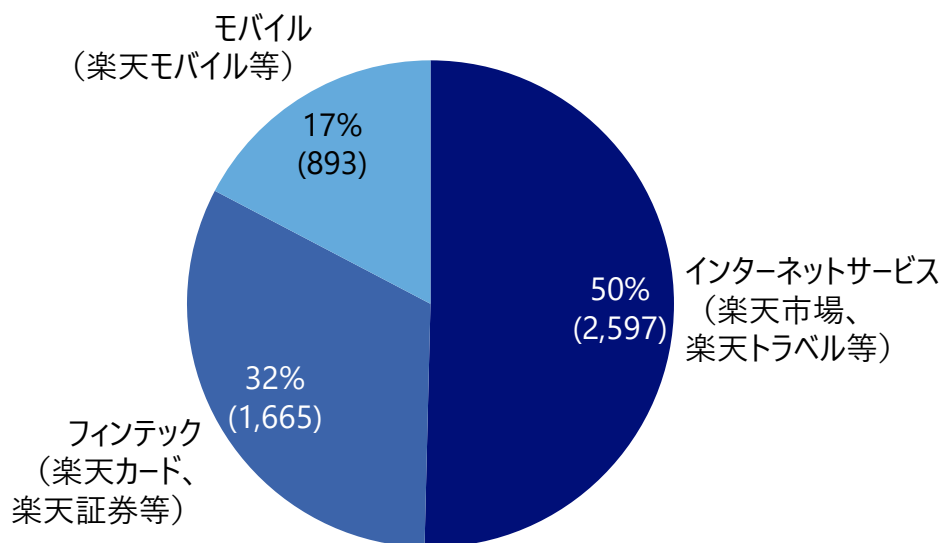
国内プラットフォーム事業者

売上高は前年同期比15.8%増の4,711億円。

一方、モバイルセグメントでの先行投資の影響が大きく、1,209億円の損失となった。

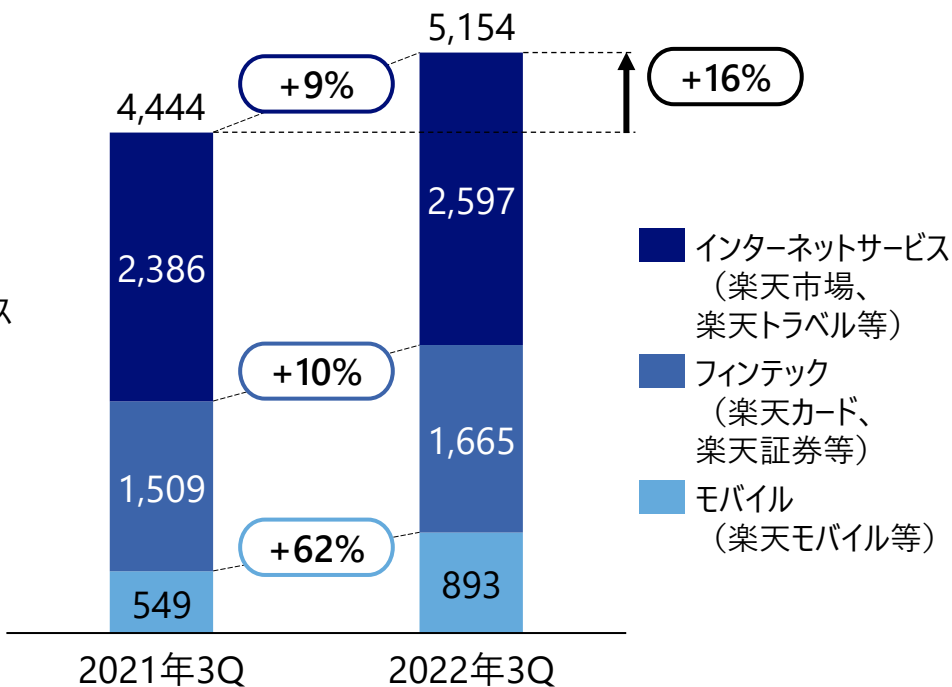
- 売上高は4,711億円*1（前年同期比15.8%増）で、過去最高額を記録
- 前年同期比、全セグメントでの増収を達成。国内EC流通総額は、巣ごもり消費を経てもユーザーが定着している「楽天市場」の好調や、夏休みの需要を取り込んだ「楽天トラベル」の回復により、第2四半期に続き、二桁成長（前年同期比13.1%増）を実現
- モバイルセグメントでは、通信料金無料キャンペーンの終了や新料金プランにより通信料金の支払いを開始したユーザーの増加が売上増加に繋がったものの、自社基地局設置等の先行投資が続いている影響で、1,209億円の損失となった

2022年3Q製品・サービス別売上高の構成（億円）



2022年3Q製品・サービス別売上高

（対前年同期比、単位：億円）



出所) Rakuten <https://corp.rakuten.co.jp/investors/documents/results/>
https://corp.rakuten.co.jp/news/press/2022/1111_02.html

*1：製品・サービス別売上高から内部取引額を引いた額

*2：決済に記載かつ純利益の定義に近い指標

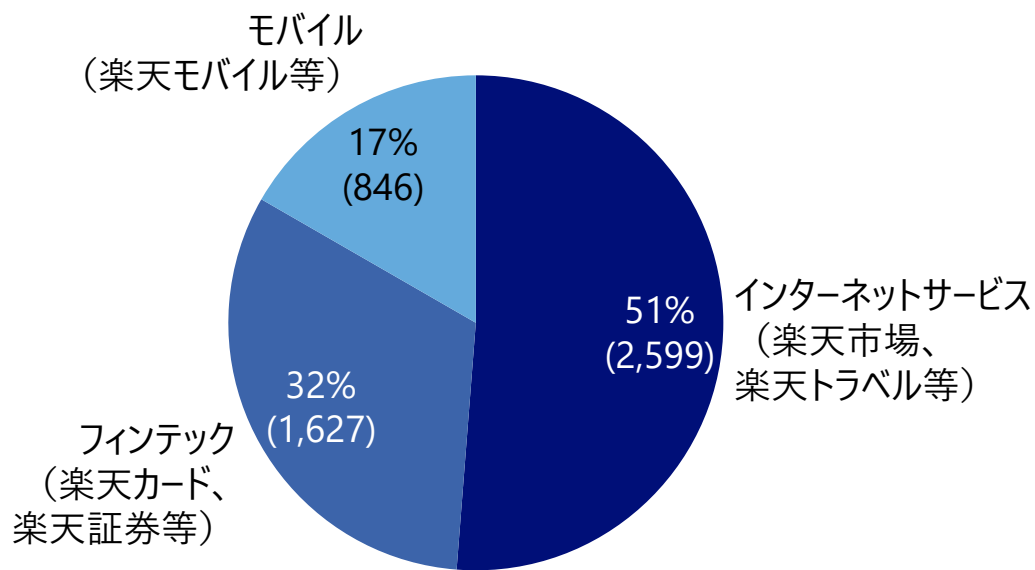
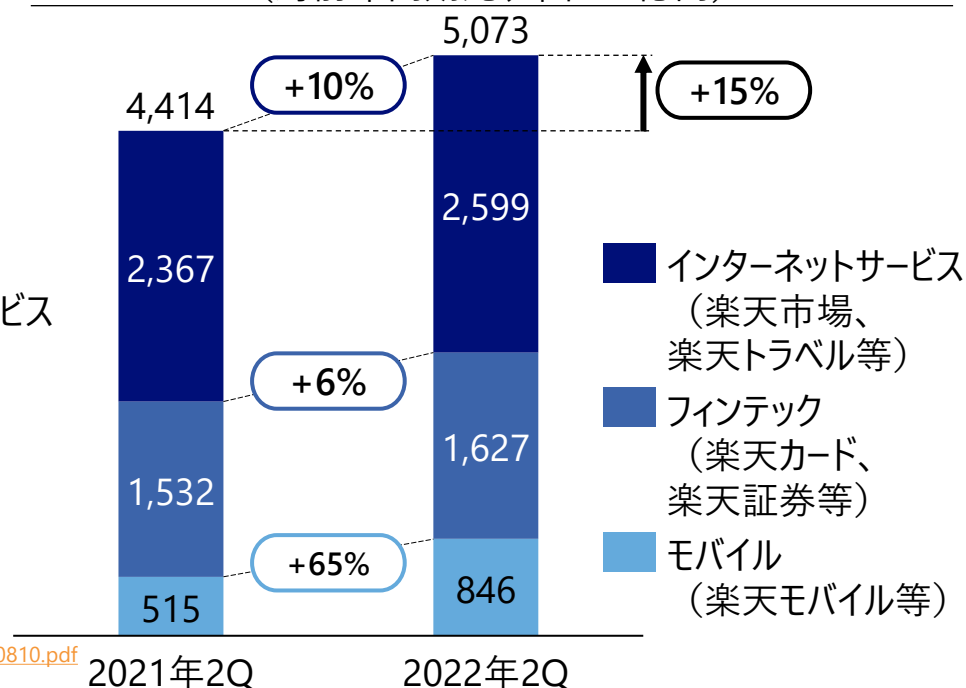
*3：モバイル事業を含めたNon-GAAP営業損失は、自社基地局設置等の先行投資継続のため、791億円を計上

楽天グループの2022年第2四半期の決算レポート

売上高は第2四半期として過去最高を記録。国内EC流通の伸長、フィンテック各サービスの顧客基盤拡大、楽天モバイルのプラン料金無料キャンペーン終了等が業績向上に貢献。

- 売上高は4565億円*1（前年同期比14%増）、モバイル事業を除くNon-GAAP営業利益*2は452億円（同13%増）を記録*3
- コロナ禍により増加したユーザーの定着や国内旅行の需要回復により国内EC流通総額の伸長、フィンテック各サービスの顧客基盤拡大等が増収に貢献
- 楽天モバイルのプラン料金無料キャンペーン終了に伴い、プラン料金の支払いを開始したユーザーの増加や新規契約者の増加等がモバイルセグメントの増収に貢献

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億円）

2022年2Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億円）

出所）楽天グループ https://corp.rakuten.co.jp/investors/assets/doc/documents/2022Q2earningreport_20220810.pdf

*1：製品・サービス別売上高から内部取引額を引いた額

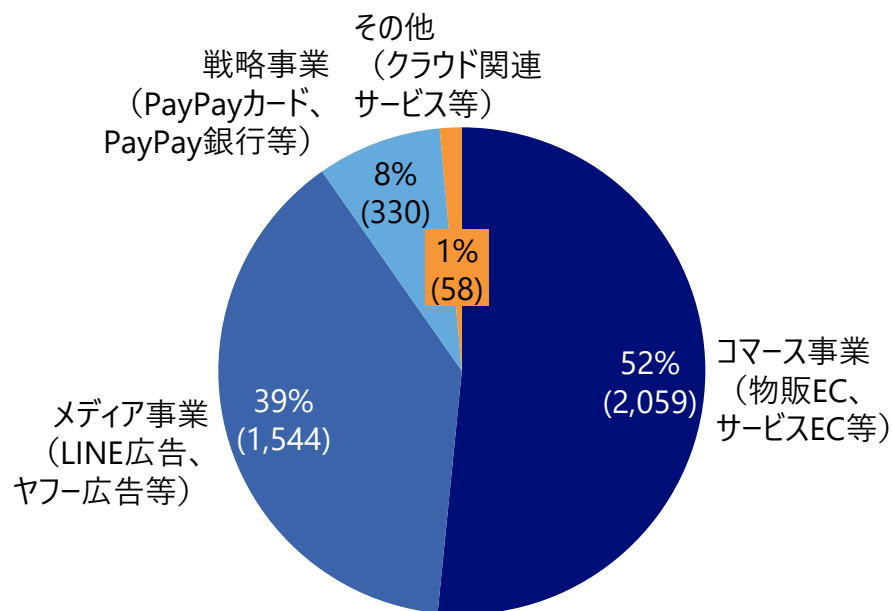
*2：決済に記載かつ純利益の定義に近い指標

*3：モバイル事業を含めたNon-GAAP営業損失は、自社基地局設置等の先行投資継続のため、791億円を計上

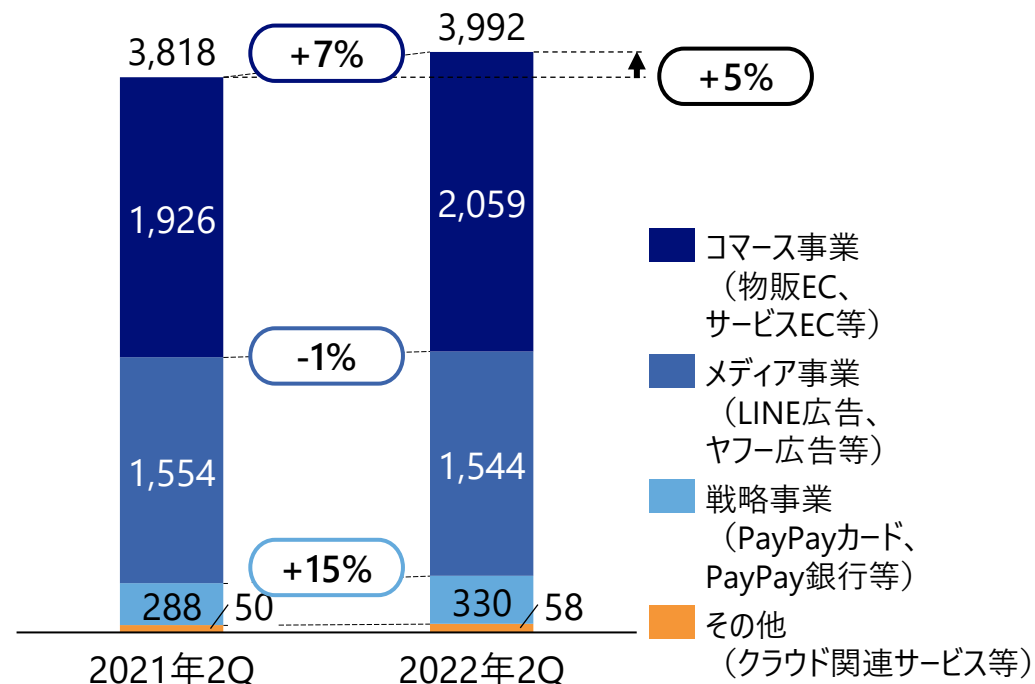
売上高は第3半期最高額を記録するも、純利益は190億円と前年同期比40%減少。 第4四半期以降は、採算性やリターンを意識しながら投資を実行する予定。

- 売上高は第3四半期として過去最高の3,943億円*1（前年同期比4%増）となり、全セグメントでの増収を達成した。純利益は190億円（前年同期比40%減）を記録
- 特に、コマース事業の増収に加えて、メディア事業では市況影響を受けにくい、LINE（株）におけるアカウント広告やヤフー（株）の検索広告は強みを発揮し、売上増加の一助となった。LINEのアカウント広告は2桁の成長率（17.8%増）を維持
- 第3四半期以降は、先行き不透明な事業環境や市況を勘案し、採算性やリターンを意識しながら投資を実行する予定

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億円）



2022年2Q製品・サービス別売上高
(対前年同期比、単位：億円)

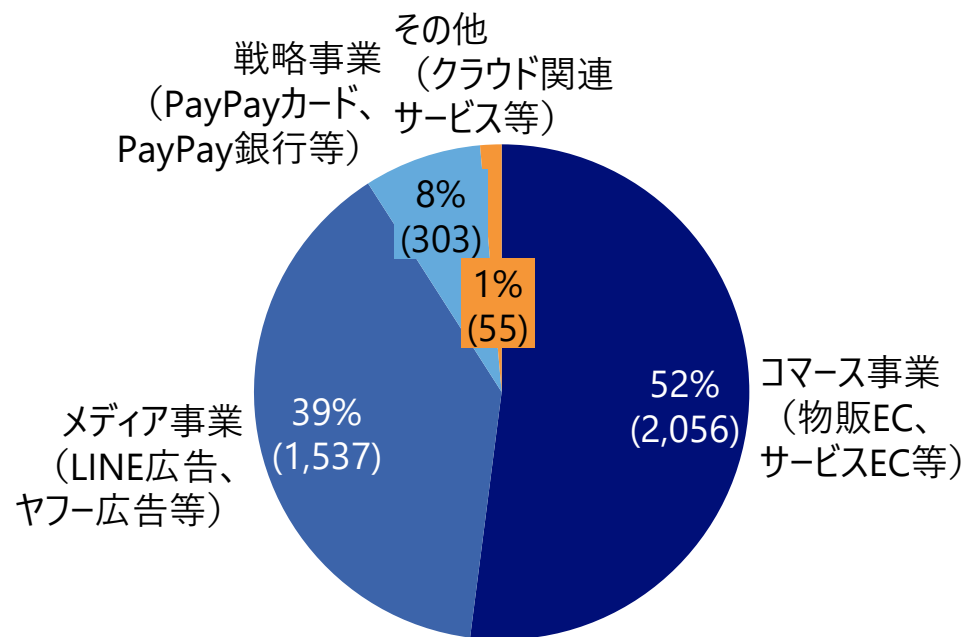
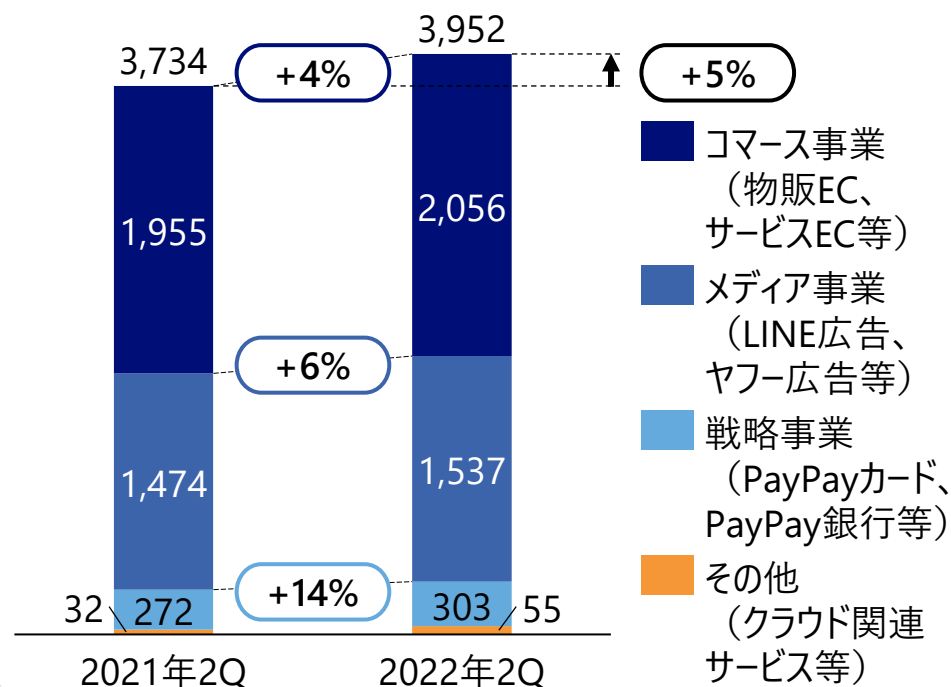


Zホールディングスの2022年第2四半期の決算レポート

**売上高、調整後EBITDAともに第2四半期として過去最高を記録。
LINE広告、アカウント広告の成長、EC取引高増加等が業績向上。**

- 売上高は3906億円*1（前年同期比5%増）、調整後EBITDA*2は865億円（同0.2%増）といずれも第2四半期としては過去最高額を記録
- LINE広告は2桁成長を維持。アカウント広告は、新規顧客獲得等により、前年同期比20%増を超える成長
- コマース事業のうちトラベル事業の回復と海外ECの成長等により、EC取引高は9895億円（前年同期比15%増）

2022年2Q製品・サービス別売上高の構成（億円）

2022年2Q製品・サービス別売上高
（対前年同期比、単位：億円）

出所）Zホールディングスhttps://www.z-holdings.co.jp/ja/ir/news/auto_20220812153700_S100OXVU/pdfFile.pdf

*1：製品・サービス別売上高から調整額を引いた額

*2：営業利益（損失）＋減価償却費及び償却費±企業結合に伴う再測定による利益±その他の調整項目

The text is framed by two decorative swooshes. The top swoosh is a gradient bar transitioning from blue on the left to red on the right. The bottom swoosh is a solid blue bar.

Share the Next Values!